

平成30年度

平成30年 5月15日

中国研 研究総括提案文書

第1回総会資料

岐阜県に生きる全ての生徒に

岐阜県中国研

「力が付いて」「楽しくて」「またやりたい」

平成30年度の方

と思う、国語の授業を提供するために

本荘中学校 伊藤 雄樹

【はじめに】

平成29年10月26・27日に行われた、文部科学省の杉本直美教科調査官をはじめ、県内外からお越し頂いた参観者の皆様に大絶賛を頂いた全国大会から、ちょうど2ヶ月後の12月27日、岐阜市立境川中学校で、毎年中国研が主催している「明日（あした）の国語を考える会」が実施されました。

この「明日の国語を考える会」とは、会の名前通り、「明日、〇〇の教材を使って授業をするけど、どんな授業をすると、生徒達が楽しく・力が付く授業になるだろうか？」ということ、参加者の先生方と一緒に考えながら、勉強をさせて頂くという会です。

12月27日といえば、2学期の授業も終わり、ほっと一息、年末ムードの頃です。

また、その日岐阜市では、滅多に降ることのない大雪に見舞われ、普段15分で行ける道のりに、約45分もかかるような日でした。

そこで、私は忘れられない言葉を聞きました。

会が終わる直前のことです。参加されたある方に、何の気なしに「こんな大雪の中、わざわざお越し頂き、本当にありがとうございます。」私はそうお言葉をかけさせて頂いた後、こんなお言葉をいただきました。

いえ、こちらこそ、こんなに国語のことについて、一緒に考えて頂くお時間が頂けて本当に嬉しかったです。私は、講師2年目で、本校から参加したもう一人の教員は、講師3年目で、中学校経験はお互い初めてです。国語科は私たち二人だけです。日々の授業はもとより、定期テストの際には、お互い作った問題がこれで良いのか検討することも難しいため、車で15分かけて、近くの学校のベテランの先生にご指導を頂き、学校に戻って直し、また持って行ってを繰り返して、ようやく生徒に出すことができます。その日常に比べれば、こうやって、国語のことについて、勉強できる時間は本当に幸せです。（「明日の国語を考える会」に参加された女性講師の方のお言葉）

私は、この言葉をお聞きして、身の引き締まる思いと、今自分が置かれている状況に対しての感謝の思いが溢れてきました。

だから、この方々は、片道1時間以上もかけてわざわざこの会に参加されたのだということ、会が終了する間際になって初めて知りました。

同時に、私は、「ここまでしてこの会に参加して下さったこの方に、その労力に見合うことを提供することができたのだろうか？」と自問自答しました。

そして、昨年7月に告示された「学習指導要領解説 総則編」に示されたある言葉が、脳裏に浮かびました。それは、「カリキュラムマネジメント」です。

「学習指導要領解説 総則編」5ページには、「カリキュラムマネジメント」について、次のように述べられています。

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。以下同じ。）問題発見・解決能力等や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。これらの取組の実現のためには、学校全体として、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育内容や時間の配分、必要な人的・物的体制の確保、教育課程の実施状況に基づく改善などを通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められる。このため総則において、「生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という）に努める」ことについて新たに示した。

岐阜県国語科研究会に置き換えた時、私の私的な解釈を加えて考えると、

**岐阜県中国研におけるカリキュラムマネジメントとは、
岐阜県の国語科研究会に在籍して下さっている36名の研究部員の方々という人的財産を駆使し、
岐阜県全域の国語科教員が、明日の国語の授業で、「そうか！こんな授業のアイデアがあるのか！やっ
てみたい！」と思えるアイデアを手軽に入手し、岐阜県全域に住む生徒全てが、
「楽しくて」「力が付いて」「またやりたい」と思う国語の授業を提供し続けることができるための
仕組みづくり
と考えました。**

そのため、情報部長岸浩道先生にご相談したところ、
岐阜県中国研のホームページが「全学年・全領域の授業の黒板写真を閲覧できるようなもの」
になればより多くの先生方と学び合うことができるのではないかと教えて頂きました。

「どうしよう、、、明日の授業、、、」
私自身もこんな悩みをもつことが日常茶飯事です。

そんな時、36名の研究部員の先生方のお力をお借りし、「いいな、この授業！やってみよう！」
と思える、そんな中国研を目指していくことが、昨年度の全国大会の成果を「広げ・深める」ことの
第一歩となるのではないかと考えております。

ぜひ、研究部員の先生方のお力をお借りし、「岐阜県の中国研だからこそできるカリキュラムマネジメ
ント」を実現し、岐阜県に住む、全ての生徒に「楽しくて」「力が付いて」「またやりたい」と思える国
語の授業づくりにお力をお貸し頂ければと考えております。
私も精一杯取り組んで参ります。よろしくお願いたします。

このような思いをもとに、以下の3点を具体的な研究計画としてご提案申し上げます。

① 岐阜県中国研だからこそできる、岐阜県全域で行うことができる「カリキュラムマネジメント」

上記のような思いから、研究部員36名の先生方のお力をお借りし、「例えばこの教材は、このように授業を
展開してはどうか？」というものを、御自身が実践された授業の黒板写真をデジカメで撮影いただき、情報部
に提供、その後、岐阜県中国研のホームページにアップすることで、岐阜県に住む、全ての生徒に「楽しく
て」「力が付いて」「またやりたい」と思える国語の授業づくりを目指していければと考えております。

また、学習指導要領においては、その実践を経年で見直し、改良を加えていくことで、質の向上を目指
していくことも記されています。

「変えなければならぬ」という思考ではなく、「昨年行った〇〇の教材を、ちょっとここだけ変更す
ると、生徒の反応が良かった」というものを累積・差し替えを行っていくことで、3年を目安として、
全領域・全学年の黒板写真がホームページで閲覧可能となれば、きっと、私たち自身も様々な先生方
のご実践から、学び合える仕組みづくりになるのではないかと考えております。

その時に私たちの研究の土台となるのが、昨年度完成・送付された『「生きてはたらく言語活動・言語
能力一覧表」』（別紙参照）ではないかと考えます。これは、昨年度まで中国研に在籍して下さった研
究部員の方々のご協力により作成された、中国研の宝ともいえるものです。

この一覧表は、学習指導要領の指導事項に照らし合わせた時、「具体的に、どのような言語活動を仕組
むことが、生徒が学習に対して魅力や必然性を感じ、主体的に学ぶことができるか」を具体的な言語活
動、作文・表現活動のテーマ集として作成されたものです。

この「生きてはたらく」に記されたものを、

- (1) 研究部員の先生方に実践して頂く。
- (2) 「やってみて、こうやって修正した方がよりよくなるのではないか」という部分を加筆修正して頂
く。
- (3) 実際の黒板写真や、授業資料をご提供頂き、岐阜県化で共有化する。

このような流れで、昨年度までの研究における財産を、「広げ」「深める」ことになるのではないかと
考えております。ぜひ研究部の先生方のお力をお貸し頂ければと考えております。

② 4部会に再編された各部会の研究構想・研究内容・「生きてはたらく言語活動一覧表」の

平成33年度完全実施学習指導要領を窓にした見直し

昨年度行われた全国大会では、現行の学習指導要領を窓として、各領域の研究構想・研究内容を練って実践してまいりました。34年度の飛騨大会では、昨年度告示された学習指導要領が完全実施になることを考えると、準備期間として、今ある研究構想・研究内容を、平成33年度完全実施の学習指導要領をフィルターとして見直すことが必要であると考えております。本日の各研究部では、研究部長より研究構想・研究内容の原案をご提案差し上げます。

大きく変更する部分はないとは思われますが、ご存知の通り、「主体的・対話的で深い学び」の具現は新学習指導要領の中で、無視することはできないキーワードであると考え、中国研の全体研究構想の中でも取り上げております。また、「書くI（確かに書く）」「書くII（豊かに書く）」を統合した「書くこと」部会、「読むI（説明）」と「読むII（文学）」を統合した「読むこと」部会では、2つの部会のエッセンスを取りまとめ、新しい部会でどのような切り口で、研究していくかを研究部員の先生方にお知恵をお貸し頂ければと考えております。よろしく願いいたします。

また、①で述べさせて頂きました「生きてはたらく言語活動・言語能力一覧表」（別紙参照）も飛騨大会を目安にして、3年間で、平成33年度完全実施学習指導要領の指導事項と一致したものに作り変えていければと考えております。よろしく願いいたします。

③ 夏季ゼミナールにおける、昨年度の全国大会から学ぶ会及び、各領域の実践交流

毎年8月中旬に計画しております「夏季ゼミナール」ですが、昨年は、全国大会に向けて、可茂・東濃・岐阜・西濃・美濃・飛騨の6地区で、全国大会の模擬授業を行ったり、実践提案のプレゼンを行ったりして、各地区の先生方のご意見を頂き、研究を太らせる会としてまいりました。

そこで、本年度は、昨年度練りに練って実践していただいた全国大会の授業者の方から、全国大会の授業実践をまとめていただいたプレゼンをご披露いただき、前年度の実践から本年度の実践を考える一つの機会として参りたいと考えております。

具体的には、6つの授業（「話す・聞く」部会の篠田先生、「確かに書く」の梅田先生、「豊かに書く」の野々村先生、読むことI（説明）の北原先生、読むことII（文学）の山田先生、言語文化の河合先生に、授業実践をまとめていただいたプレゼンテーションをご披露いただき、参加者の方自身の希望の授業のプレゼンテーションを見て頂きます。前年度所属部会と別の部会に所属して頂いている研究部員の先生もいらっしゃると考えますので、前年度までの研究について、共通理解・学びあいが行えればと考えております。その後、各研究部から、部長から研究構想の提案・研究部員の実践紹介・質疑応答を行い、研究部の垣根をこえ、他の領域の研究部の研究についての共通理解を行い、本年度の研究をさらに推し進めて頂くような会にしていきたいと考えております。

平成34年度実施の「飛騨地区大会」までの向こう4年間の研究に関わる見直し

年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度 飛騨大会実施
行うこと	① 全体研究構想および、各部会の研究構想の見直し ② カリキュラムマネジメント（黒板写真のホームページアップ）1/3年度 ③ 夏季ゼミナールにおける全国大会授業者の実践提案及び、各部会の実践提案 ④ 「ぎふこくご」における1年間の研究の報告	① 飛騨大会の実施要綱の作成と検討 <small>（準備委員長および、準備委員・研究副総括 日枝中学校 野島将也先生）</small> ② 飛騨大会における授業者の決定と指導案の作成開始 ③ 飛騨大会における実践提案者の決定と実践提案の作成開始 ④ カリキュラムマネジメント（黒板写真のホームページアップ）2/3年度 ⑤ 「ぎふこくご」における1年間の研究の報告	① 飛騨大会の指導案検討 ② 飛騨大会における各部会のプレゼン授業 ③ 飛騨大会の実践提案の検討 ④ 第2回研究総会での研究部会で、実践提案および、指導案の検討 ⑤ カリキュラムマネジメント（黒板写真のホームページアップ）3/3年度 ⑥ 「生きてはたらく言語活動・言語能力一覧表」の完成 ⑦ 「ぎふこくご」における1年間の研究の報告	① 飛騨大会の授業最終準備 ② 飛騨大会の実践提案最終準備 ③ 飛騨大会の運営 ④ カリキュラムマネジメント（黒板写真のホームページアップ）の更新 ⑤ 「ぎふこくご」における1年間の研究の報告（飛騨大会の報告）

平成30年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月15日 (火)	第1回 研究部総会 ① 研究部長および、研究部員の紹介 ② 全体研究構想および、平成34年度開催の飛騨大会までの中国研活動の見通し（研究総括伊藤より） ③ 各研究部研究構想の検討（各研究部部長より） ④ 岐阜県中国研におけるカリキュラムマネジメント（「明日に生きる言語活動一覧表」を元にした授業実践及び加筆修正・黑板写真のホームページアップ）における1年次の役割分担 ⑤ 8月の中国研夏季ゼミナールにおける実践発表者の決定	
各部会で 部長が集約 その後送付	① 黑板写真を情報部 岸 浩道先生にメールで送付 メールアドレス beans@tcp-ip.or.jp ② 8月の中国研夏季ゼミナールにおける実践発表の検討	
8月初旬 <small>（日時が決定したら主務者より詳細をお伝えします）</small>	第1回「明日の国語を考える会」の運営	
8月中旬 （日時が決定したら部長より詳細をお伝えします）	中国研夏季ゼミナールの実施・運営 ① 前年度実施の全国大会における授業者 「話す・聞く」部会 篠田 陽子 先生 「確かに書く」部会 梅田 佳宏 先生 「豊かに書く」部会 野々村 琢磨 先生 「読むことⅠ（説明）」部会 北原 章大 先生 「読むことⅡの（文学）」部会 山田 優貴 先生 「言語文化」部会 河合 のぞみ先生 の授業実践をまとめていただいたプレゼンテーションをご披露いただき、昨年度までの研究について学び合う ② 各部会からの実践提案 (1) 研究部長から研究構想の提案 (2) 研究部員の実践紹介 (3) 質疑応答 （各部会15～20分程度の実践提案、15分程度の質疑応答）	
12月	1年間の研究の歩みを「ぎふこくご」にまとめる執筆 （主務者・研究総括・研究部長・各部会1名の方に実践報告）	
12月下旬	第2回「明日の国語を考える会」の運営	
2月中旬～ 下旬	第2回 研究部総会 ① 各研究部研究構想の検討と完成 ② 岐阜県中国研におけるカリキュラムマネジメント（「明日に生きる言語活動一覧表」を元にした授業実践及び加筆修正・黑板写真のホームページアップ）における2年次の役割分担 ③ 来年度の研究部員継続のお願いと確認 ④ 「ぎふこくご」の配布による、研究報告	飛騨大会における計画を、この時点である程度ご報告いただけるように、準備を進めてまいります。